

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第45回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともに紹介します。

「裏木曾」その九 小谷狩①

「山落とし」(第四十四回参照)で斜面を利用して降ろされた木材は、その後、谷筋を水



大正時代頃、川の上流部での小谷狩の風景(飛騨)丸太を並べた滑り台的な装置「シュラ」が多用され、「山落とし」と見た目は非常に似ている

主に利用した運材で徐々に川の本流まで送られていきます。この行程を総称して「小谷狩」と呼びます。

「山落とし」では主に自重で斜面を滑り落とされてきた木材ですが、緩勾配となるにつれ自重のみでは動きにくくなりま



大正時代頃の木曾での小谷狩の様子(上流部)

「小谷狩」では水も用いてその浮力を利用して運材を行います。ただし、同じ「小谷狩」と呼ばれる行程であっても、水量が少ない上流部と水量が増加する下流部とはその様相は大きく異なります。上流部での「小谷狩」の風景は「山落とし」とよく似ています。

大正九年、裏木曾からの神宮(伊勢)用材を谷筋で運搬する様子(現在の東濃森林管理署管内)。特に巨大な材であり一般的な運材風景とはかけ離れているが広義の小谷狩と言える。



ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、コードを読み込んでください。

